

会 議 録

会 議 名	第5回 環境パートナーシップ会議設立準備会会議録					
開 催 日 時	平成15年12月15日(月) 午後6時00分～午後9時10分					
開 催 場 所	宇都宮市役所 14階D会議室					
出 席 者	準備会委員	青木 章彦		荒木 廣治		大野 邦雄
		大谷津 孟		神宮 由美子		陣内 雄次
		高橋 悟		藤原 宏史		三宅 徹治
		森本 久子		山形 雅美		
	ワークショップファシリテーター	岡田 雅代				
事務局	宇都宮市環境企画課宇梶統括グループリーダー他6名					
公開・非公開	公開・傍聴人1名					
議 題	<p>議 事</p> <p>(1) (仮)環境パートナーシップ会議の役割, 事業計画及び運営方法について</p> <p>(2) その他</p>					

発言要旨 【1.(仮)環境パートナーシップ会議の役割, 事業計画及び運営方法について】

三宅委員長	<p>議題1,(仮)環境パートナーシップ会議の役割, 事業計画及び運営方法について協議を始めたいと思います。協議にあたっては, 岡田さんのご支援をいただきながら, ワークショップで行いたいと思います。なお, 今回で準備会としてのワークショップは最後になりますので, 協議終了後, 岡田さんに一言いただけたらと思います。それでは早速, 岡田さんに本日のワークショッププログラムについてご説明いただいた後, 協議に移りたいと思います。岡田さんよろしく願いいたします。</p>
岡田講師	<p>本日のワークショップの進め方について説明させていただきます。まず, お手元にくっつか資料を配布してあります。全体の進行は最後についている資料(別紙1)になりますが, 壁に張り出してある模造紙の様式と同じ物(別紙2)が資料として配布してありますので, 今日はポストイットなどを使わずに, 自分で考えついたアイデアがありましたら, その場でお手元の資料に書いていただいて, それを基に発言していただく方法で進めていきたいと思います。</p> <p>今日は, ワークショップとしては4回目となりますが, これまでの3回は主にワーキンググループのことで, 具体的なワーキンググループのいろいろなアイデアを出した</p>

	<p>り、どんなワーキンググループが実現性があるのかとか、具体的なコストを詰めるなど、全体の中で重要なところを決めてきました。今日は、また元に戻って、この環境パートナーシップ会議全体のことを重点的に話し合っていきたいと思います。</p> <p>今日の内容については、大きくは手元の資料にある通り、会議全体の役割をもう一度みんなで確認するという事、次が平成16年度の環境パートナーシップ会議で行っていく事業の事、3つ目が総会と企画運営委員会ですが、これは仮称なので、あとの議論の中で具体的なもう少しやわらかい名称で、解りやすく中身を言っているアイディアが出てくれば変更してもよろしいかと思います。要は、今行っている会議のイメージ、環境パートナーシップ会議とワーキンググループにどういう人が参加して、どういう活動をしていくかということ、なるべく具体的に全体像をお互いに見ながら進めていきたいと思っています。そして最終的に総会や、仮称の企画運営委員会、ワーキンググループなど環境パートナーシップ会議全体の外形的なことも考えながら議論して、イメージを膨らますところまでで今日は終わりたいと思います。</p>
	会議全体の役割について
岡田講師	<p>まず最初に会議全体の役割についてですが、実は事務局案で出していただいています。ここに関しては、さほど意見が出ないと思うのですが、環境基本計画の113ページにある「環境パートナーシップ推進プロジェクト」の中に書いてあることを基に、大きく3つの役割を出していただいています。1つが「市民、事業者、市の各主体が対等な立場で協力及び連携しながら具体的な環境保全活動を実践します」です。要はこの会議の目的である環境保全活動を役割としてあげてあります。次が、「環境問題への正しい理解と知識を深め、環境保全のために行動する人の環を市域全体へ広げ、活性化を図ります」です。3つ目が「本会の取り組みや環境に関する情報などの積極的な発信と交流を進めます」です。これは、お手元にイメージ資料として事前に配布されています。</p> <p>この会議にとって会則を作っていく場合に、イメージ資料の中にいくつか実際の参考事例として、「京のアジェンタ21」とか、長野市のものであったりなど、いくつか出ていると思いますが、そういった会則も目的の次くらいにくる内容かと思っています。さらに、このことで全てを言い尽くせるような大きな言葉で最終的には決めたいと思います。時間を5分くらい設けますので、足りないと思うことや、こういうことも大切だと思うアイディアをメモをしていただきたいと思います。 時間終了。</p> <p>何か意見がありましたらお願いします。</p>
大谷津委員	配布されたイメージ資料の中にもありますが、現在、市でいろいろな事業を実施していますが、環境の保全や創造に関する施策に協力するというを入れていただきたいと思います。
岡田講師	協力するのは誰になるのですか。
大谷津委員	市民に限らず、市や事業者などの各主体で、この環境パートナーシップ会議の参加者全員です。
岡田講師	他に何かありますか。
三宅委員長	環境基本計画の164ページに、推進体制について書いてあるのですが、それぞれ主語が明確になっていて、1番は市が何を行うか、2番目は本会議が何を行うか、3番目は環境審議会が何を行うかが書いてあります。あえて言えば2番目に該当するんですが、実は予め書いてあるもので気になっているものは、ターゲットが明確になっていないということです。何を行うのか、何のために行うのかが明確になっていないと思うんです。そういう意味で言うと、元々の存在意義は、宇都宮市の環境基本計画を前に進めていくことがターゲットなわけで、宇都宮市の環境基本計画推進の一翼を担うことになると思うので、そういうことが一番最初にあるべきことなのかなと思います。

岡田講師	他に何かありますか。
荒木委員	環境基本計画の中には4つの環境項目があって、それらについて幅広く意見を交換する場所、原点に戻って全体を議論する場所であると思います。市が進めているもので、あまり市民がのってこないものをどうしたらいいのか。また、各委員がやろうといったものをどうしたらいいのか。そういうお互いが持っている能力を補い合うような場にすればいいのかなと思っています。それを、広い環境基本計画の全体に渡ってできるようにすることです。
岡田講師	このことについて事務局はどうですか。
事務局	環境基本計画を推進するということについては、イメージ資料の「目的」の中に書いてあります。荒木委員の意見にあった役割については、ある程度きちんとした文章で落とし込むのもいいのかなと思います。みなさんのパートナーシップ組織ですので、そういったことを委員のみなさんが考えているのであれば、役割として組み立てていければと思います。ただ、会則など、参考事例として他の都市のものを見ていただけたと思いますが、会議全体の役割については、ある程度大まかな形で3～4つかなと考えられますので、そういったことで協議していただけたらと思います。
岡田講師	こういった意見を踏まえて、次回、最終的な会則を詰めていくということによろしいですか。
事務局	今の件についてですが、委員長の方では、環境基本計画を前面に出して、それを進めていくんだ、というような感じに受け止めたのですが、それはそれとしてこの会議の目的だと思いますので基本計画の推進という表現が入るのは相応しいのかなと思います。
三宅委員長	他市の事例を見せて貰いましたが、当たり前のことしか書いてなく、具体的に何を行うのか、結局、読んだあとに解らないというのが率直な感想です。今の予め書かれている1～3についてもどちらかという、言われてみればまあいいかなというだけであって特長がない。ただ、環境基本計画を担うという言い方は、かなりはっきりしていて責任が問われると思っていますので、そこまで宣言すれば1年活動して総括の時に、環境基本計画のこの部分に寄与できたなど、何がやれたのかということの評価ができると思います。そういう意味では厳しいと思いますので、この件については少し議論した方がいいかもしれません。
岡田講師	このことについて何かありますか。
森本委員	<p>目的ではないのですが、足りないと思ったことが、市が実施する環境の保全及び行動に関する施策に協力しますという項目がここあって、施策に協力しますというのは、すでに作られているものに私たちが協力しますというだけなのかなというように思います。この点が疑問点だったんですけども、私は協力する以前の協議するというのがこのパートナーシップの大事なところだと思いますので、みなさんの意見と同じですが、協議する場であるという事が重要だと思います。</p> <p>それともう1つ別のところで加えたい部分があるのですが、「役割」のところ、環境基本計画の推進のためのパートナーシップ会議がどう動いていくかというのが次のポイントなんですけど、環境だけに留まっていると、弊害があると思うのです。環境の部署だけで解決できないところに問題が浮上していると思います。この間、環境カウンセラーの全国大会があったんですけど、環境省が「環のくにづくり」という事でパートナーシップを推進していくために、5つ位の各省庁を入れて協議するという形態に移行しつつあるんです。国もやり始めたばかりですが、ぜひ宇都宮市もそういう形態をとって関係各課の人たちも入れた環境パートナーシップ会議という事で、市民・事業者・市の「市」の部分環境課の職員だけに留まらないような形態になったらいいと思います。</p>
岡田講師	環境基本計画をテーマにしていることに関してはよろしいわけですね。その時の行政が

	今参加されている環境課の人だけではなくて、関連する課と連携してやりたいという事ですね。このことに関して事務局としてはどうですか。
事務局	市として環境基本計画の推進体制をどう整えているかと言いますと、全部で24課からなる、庁内の推進委員会と幹事会を設けていまして、各課長等で計画の進行管理をしていこうという事で庁内的には進めております。ですから、基本計画については、環境企画課だけではなくて、関係24課で一緒に進めていこうという事で、環境企画課で取り込む事業についても、行政として他の課でも一緒に行いましょうという事で呼びかけております。
森本委員	それは既に始まっていることですか。
事務局	推進委員会は今年の7月に設立いたしました。
岡田講師	他に何かありますか。 委員全員特になし。
	事業計画について
岡田講師	では、次の「事業計画について」に移りたいと思います。これまでのワークショップで個別の事業内容を話す中でも、全体的な事業に当たるものもいくつかあったと思います。例えば、環境フェアの開催とか、年次報告書に対して意見を述べることなど、今までの議論をもう一度しても構いませんので、環境パートナーシップ会議として、今日のような会議を開催して、来年度にどのような事業を年間通して行えるのかという事を、なるべく出せるところまで出していきたいと思います。いろいろなアイデアをお手元のメモ用紙に書き込んでみてください。
荒木委員	確認ですが、環境パートナーシップ会議の組織の中の全体を含んでいるのか、それとも、先ほどまでの話にあるこの会議という位置付けだと、企画運営委員会に近い会議なのか、どちらのイメージですか。
岡田講師	今まで、どこまでを環境パートナーシップ会議と言うのかを改めて議論したことがなかったと思うんですけれども、こういう事もここにいる方たちがリーダー的なことをやっていながら関わっていくということだと、全体的なことに関わってくるという事だと思います。その中で、この後こういった形でやっていくのかという話にも関連していくと思うんですけれども、実際、全体のワーキンググループだけの事業ではなくて、例えば、環境フェアですとみんなで作る事ですし、その時にどこがやるのと言った時に、ここの1つが環境フェアをやるのではなくて、実際にはワーキンググループの1つが中心になってやっていくことだと思うんです。とりあえず、誰がやるのかという事ではなくて、環境パートナーシップ会議の全体事業として来年度何があるのかということを出していただきたいと思います。いつ頃この総会が開催されるのかなどもまだ決まっていますが、この事業計画の中におおまかなアイデアで結構ですので出してみてください。
森本委員	「事業計画」と「アイデア」と「行うこと」はどう違うのですか。
岡田講師	「事業計画」は、それぞれのワーキンググループで何をやっていくのかという役割分担の様なもので、とりあえず、ここでは当然全体の企画するイベントだったりすると思います。
森本委員	各ワーキンググループにかかわらずいろいろな事ということですね。
岡田講師	そうですね。今まで、ワーキンググループの中で具体的なプロジェクトを出していただいているんですけれども、その一部をみんなとやるイベントの中に入れてみてほしいと思いますし、全体でやることをここで決めてもらえればよいと思います。
三宅委員長	初年度であるという事から、大事な事業計画についてはこの推進会議を広く宣伝するという事、参加する人を広く募集するということが大事な事だと思います。

岡田講師	呼びかけのなものです。その具体的な方法として、紙とか媒体とかで宣伝するのか、イベントなどで宣伝するのかを決めなければなりませんね。
森本委員	わたしは、エコショップのワーキングチームのメンバーなのですが、ゴミ減量についての提案などがあります。市民への教育と言う点については、どこかで、発言できますか。
岡田講師	学習促進グループの方はどうですか。
青木委員	このことはいずれ必要になると思います。しかし、それは自治会の役員がいいのか、やる気のある方がいいのかというのは難しいと思います。
岡田講師	これは今ワーキンググループの中で、来年出来るところまでということを出ているんですけども、それを更に全体としてやるのかやらないのかということですね。他に何かありますか。
荒木委員	平成16年度以降にできるほうが好ましい新しい活動とか、事業の創出、企画など、そういうものをこちらサイドから提案するのと、市民に提案することを求めるのかということ、そして、ワーキンググループが段々増えていくための準備をやっていくのかなと思います。
高橋委員	例えば個人とかグループが、何かやりたいと思った時にどうやって活動を始めたらいいいのかというのがあるので、そういったものを最初に聞かれるような窓口みたいなものを、この環境パートナーシップ会議の中に持っていけば、下部組織にあたるワーキンググループというのがやがて形成されてくるのかなと思います。これから出てくる活動とか、これから出来るかもしれないグループとか、これから参加したい個人とか、そういう人が最初に声を掛ける場所が環境パートナーシップ会議の中に窓口として開いている、ただそういったことを聞いたり相談に乗ったりすることが環境パートナーシップ会議の仕事ですというような場にしていきたいと思っています。
三宅委員	いいですね。それをもう少し広げて、宇都宮市の外との環境に関する窓口的な機能をやればいいなと思います。窓口としての機能というものが定着していけば、市民からの相談も受けられると思いますので。
岡田講師	窓口的なものをUネットで作るとは限らないということですか。
三宅委員長	Uネットの中で相談窓口を開設するという事です。
岡田講師	個別の機能と、全体の機能の話になりましたね。もし、エコショップで来年度やるとしてどういう事が考えられますか。ホームページを立ち上げれば、そういうコーナーを設けることが出来ますが。全体事業をやりながら、ワーキンググループの事業にも関連してくるんですね。
荒木委員	まだ出来ていないワーキンググループが増えていくための種まきとかそういう意味ですね。
岡田講師	窓口開設以外に、種まきの仕掛けは何かありますか。
荒木委員	例えばこの委員会の中で、3つに絞られた以外の提案がありますよね。その中で魅力のあるものを肉付けして、「こういう活動を行おうとしていますので、参加する意思のある人を募集します」といったようなことは出来ると思います。ただ、この「行おうとしています」という時には、来年度以降、誰か核になる人を決めなければいけないと思います。
岡田講師	呼びかけの方法としてはいろいろとあると思います。新規参加者を呼びかける時に、こういったことをメインの柱にして、手段としてはホームページで相談窓口を作ったり、いろんな広報の仕方はあると思うのですけれども、呼びかけの方法については、みんなできよく考えようということになるんですかね。

荒木委員	先ほど高橋委員が言った通り、市民の方で、まとまっていないけれど何かやりたいと言った時とか、今までに出たけれど計画に乗ってないワーキンググループを4つの環境目標の中でバランスを取ってやろうとすれば、それをどういう風にやろうとするのか、ある程度作っておいて、このような計画がありますので参加する人を募集します。というように両面からやった方がいいのかなと思います。
岡田講師	そういった議論を年間通して考えていこうという事ですね。他にイベント的なことで、こういったイベントをやりたいという事はありますか。環境フェアという物は既にあるんですよね。
大谷津委員	あります。年に1回、10月に行っています。
岡田講師	それは環境企画課で行っているんですか。
大谷津委員	環境部で行っています。
岡田講師	環境部で企画しているんですね。それに関して環境パートナーシップ会議が企画に参加することは可能性としてはありますか。
大谷津委員	可能性として、あると思います。
岡田講師	環境パートナーシップ会議として環境フェアに参画していくことはどうですか。
青木委員	それもいいと思います。1つ前に戻りますが、新規参加者ということですがけれども、実際に動き出すためには会議全体として会員数が必要だと思います。そのためには、例えば、具体的に1万人の会員数を指すとか、そういう風にある程度明確にしないと実際に動き出して回っていくのが心配です。ですから、具体的な会員をどの様に集めていくかという事を考えなければいけないと思います。そして2つ目として、動き出す時に核になるのが企画運営委員会だと思いますので、定期的を開催するという事が大きな要素になると思います。初年度ですので、企画運営会議を動かすと同時に、会員をなるべく多く集めてマンパワーを集める、その過程の中でいろいろな企画がでてくるんだと思います。
岡田講師	先ほど話があった通り、この事業計画の足りない部分を補足したり、どうすれば会員を集められるのかということを中心に定期的に議論していく会議を設けるということですね。
青木委員	先ほど環境フェアがあるといいましたけれども、それをこの会議が一緒に入ってやることで、市民サイドの企画を盛り込めれば市民を会議に呼び込む1つの呼び水になるのではないかと思います。
大谷津委員	実行委員会とは別組織として考えるんですかね。
青木委員	そうですね。実行委員会形式がいいのか、あるいは庁内の会議と一緒にやるのがいいのかは別として、参加するのはいいと思います。
岡田講師	このまま準備会として入ってしまうということですね。他には何かありますか。企画運営委員会の話と重なってくるので、気がついた時点でこの話に戻っても構いませんので、次に移りたいと思います。 それでは、企画運営委員会などが具体的にこういった役割をするのかという所に行きたいと思います。これまで、ワーキンググループの活動について具体的にイメージできるように議論して来たので、あまり机上の空論にならないように具体的な活動が出来上がるとは思いますが、ワーキンググループに関しては、今まで議論してきたことを基に今までの議論を言葉として落としとして貰いたいと思います。それで、どういう風に全体を見ていくかというと、ワーキンググループに参加する人はどういう人がといった時に、ワ

	<p>ーキンググループのリーダー、サブリーダー、それから具体的にこの企画を実際に運営して、ただ参加するのではなくて企画の段階から参加していくという人です。それから、会員と書いてありますけれども、イベントによっては平地林に関するアイデアがあったと思いますが、そういう所の企画に参加するだけという人もいますので、そういう人を会員とするのかしないのかについても議論していただきたいと思います。</p>
	<p>ワーキンググループについて</p>
岡田講師	<p>次に、ワーキンググループで見たときに、何をワーキンググループがしていくのかというと、ワーキンググループの活動計画案の作成というのは、2回目、3回目のワークショップの中で出してきたことですね。それから、活動報告書の作成、具体的な活動の実践、企画運営委員会委員の推薦というのを事務局案として挙げているのですが、この企画運営委員会にはワーキンググループの中から少なくとも誰かが参加して欲しいという事です。アイデアとしては、企画から報告まで関わるコアスタッフまでということ、定期的に最後まで参加してくれる人がいないとこのワーキンググループとしては出来ませんという事です。では、また時間を取りますのでワーキンググループの行うことについて議論してください。 時間終了。</p>
岡田講師	<p>何か足りないとか、気づいた点はありましたか。</p>
藤原委員	<p>組織が大きくなると事務局が必要になりますよね。</p>
岡田講師	<p>ワーキンググループが増えていくと必要になりますね。</p>
藤原委員	<p>そうですね。専任の事務局が必要になってくると思います。この形式でいけば、ワーキンググループが実際の活動をする訳ですけども、企画運営委員会である程度枠組みが決められてしまうと思うんですよね。年度でやるとすれば、事業項目を決めていく事とか、予算の事とかがあるので、企画運営委員会とワーキンググループの間に多少のフィードバックがあってそれで進んでいき、決定機関が企画運営委員会になると思います。</p>
岡田講師	<p>それぞれのワーキンググループの事を最終的に決定するのが企画運営委員会ですね。このワーキンググループ自体の事で何かありますか。</p>
高橋委員	<p>この会員ではない人、ワーキンググループの活動の中で、例えば、平地林の下草刈の活動をする人がいたとして、この人は会員ではないけれども、活動には参加するという種類の人はいないんですかね。会員は会費を払いますよね。ワーキンググループというのがあるって、いつどこでこんな活動をしますという時に、そこに行ってゴミ拾いや河川掃除などをやるうという会員ではない人というのは、その構成の中ではどこに入るんですか。会員ではないけど活動をする人。</p>
岡田講師	<p>こういった参加者は認められますかね。</p>
委員全員	<p>一般参加者として認められますね。</p>
青木委員	<p>下草刈を含め、そういったボランティア活動をする際にイベントをやって、一般参加者として参加して貰ってどんどん参加者を増やしていくという手法もよく使われるので、最初は一般で参加していて興味をもってあとで入って貰えるということもありますので、そういうのも含めて一般参加者というのは非常に重要だと思います。</p>
岡田講師	<p>コアスタッフと会員の違いが出るのかもしれないですね。</p>
青木委員	<p>会員の人たちがいろいろなワーキンググループに参加してくのかもしれないですね。コアスタッフはワーキンググループを中心に推進していくというイメージですね。</p>
岡田講師	<p>「行うこと」で何かありますか。</p>
三宅委員長	<p>定期的な情報発信ですね。活動が始まると外からは見えなくなってしまう部分があると思いますので。</p>
岡田講師	<p>それは全体の事業だけではなくて、ワーキンググループごとにですか。</p>

高橋委員	ワーキンググループがワーキンググループの中で自己完結する訳ではないと思うので、それを企画運営委員会とのやり取りだけで足りるのかは分かりませんが、ワーキンググループに参加している人が他のワーキンググループではどんな事をやっているのかを見られる様な情報を得る機会があればいいと思います。
大谷津委員	企画運営委員会で行う様な広報や交流会やキャンペーンをやったりと、いろいろな事が入ってくるんだと思います。
岡田講師	この情報発信は、ホームページの中や環境フェアの中で行ってもいいと思います。
陣内委員	「行うこと」では、コアスタッフと会員の募集というのが入っていると思いますが、やはり一番難しいのはどういう組織を作っていくのかという事だと思います。
岡田講師	ワーキンググループの組織自体のことですか。
陣内委員	今いるメンバーは皆さん忙しくて難しい部分があると思うんです。だから、どういう人を集めてどういう風にやっていくのかという事をしっかりとやっていかないといけないと思います。
岡田講師	動かす人を集めないといけないという事ですね。ここにいる人は一番忙しいパターンだと思います。それぞれの会議をやりつつ自分も活動をして、片付けから最初の企画までやっていくようなイメージになっているんですが、ある程度リーダーになると多少はそういう部分はあると思いますが、とにかく今後、活動のメインになる人達がどれだけ集められるかという事が重要だと思います。これは最初にある通り、参加者をどれだけ集められるかという課題になるかと思うんです。これに関しては、来年度の事業計画の中で、この会議でやっていくということになりますね。他に何かありますか。 特になし。 無いようですので次に移りたいと思います。
企画運営委員会について	
岡田講師	では、企画運営委員会についてですが、じっくり議論していきたいと思いますのでアイデアを考えてみてください。 時間終了。 まず、「企画運営委員会」という名称ですが何かいいアイデアはありますか。思いついたらお願いします。では、構成としてはどういった人を含めたいと思いますか。
大谷津委員	ワーキンググループのリーダーとサブリーダーの方には入っていただいた方がいいと思います。また、ワーキンググループの中で会員が増えた場合に、人数は分かりませんがその中でワーキンググループの推薦者としても入れた方がいいと思います。
陣内委員	企画運営委員会の名称ですが、イメージとしてはNPOの理事会だと思うんです。こういうことをやろうと思えばNPOでも出来るわけですが、何で行政がやるのかという事を考えると、NPOでは出来ない事があるので行政がやるわけで、協働でやるのがこのパートナーシップの面白い所で、そうすると運営委員会の構成員として行政も入った方がいいと思います。
岡田講師	今この会議の中に行政の方が委員としてもワーキンググループのメンバーとしても入っていて、他に事務局としても入ってますけれども、事務局は当面今の事務局の方でいいんですか。
大谷津委員	ワーキンググループの内容によって違うと思います。
藤原委員	ワーキンググループの内容によって違うかもしれませんが、関連団体との関わりがある場合もあるので難しいと思います。
岡田講師	例えば、新しいワーキンググループが出来ると言った時に会員にならないかもしれないという事ですか。
藤原委員	会員にならないかもしれませんね。

岡田講師	NPO の理事会のイメージですと、会員という事が前提だと思うんですけども、内容によってはオブザーバー的な感じですかね。
三宅委員長	総会の構成メンバーのイメージが、その会のポテンシャルを高めるためには関連のある著名な人とかを出してもいいと思います。
岡田講師	1万人集めるためには集められる人を、という事ですね。他にワーキンググループに関連する人はいますかね。
青木委員	企画運営委員会は、進行管理も含めて重要だと思うので、仲間内だけでやっているとかチェック機能が働かない場合もあるので、チェック機能を働かせるために外部の弁護士などに依頼するのもいいと思います。
岡田講師	監査的な意味合いも含めてという事ですか。
青木委員	そうですね。年間1回程度でいいとは思いますが、チェック機能を果たせる人が必要だと思います。
岡田講師	この心配としては、仲間内だけだと馴れ合いにならないかということですね。
高橋委員	活動しない人が企画運営委員会で意見だけを言うというのはどうかなと思います。やはり活動主体の人が企画運営委員会の中で来年はこういう事業の方がいいのではないかとこの様にするのがいいのではないかと思います。
青木委員	懸念していることがあるんですが、企画運営委員会の会議だけをやっていて先に進まないというのが一番恐れている事なんですね。ですから、進行管理が出来る人に中にいてもらう必要があると思います。他に運営委員会のイメージとしては、ボトムアップ形式だと思うんです。ワーキンググループで出てきたアイデアと、総会で決まった年次の活動計画を実際に動かしていくとなると、一番基本的な事は、いかに進行管理をするかという事だと思うんです。そのためにも、できればきちんとチェック機能を果たせる人にいていただいた方がうまく回るのかなと思っています。
岡田講師	ここでいうチェック機能というのは、お金とかそういうことではなく、活動の進行管理に対する機能という事でいいんですかね。会議の中にいる人では難しいですかね。
青木委員	会議の中にいる人で出来ればいいと思いますが。
岡田講師	これはどういう人がなるのか。委員長や事務局ですかね。
森本委員	京都の事例を見てみると、専門委員という専門的に助言をする人がいます。例えば、他の地域や事例で活躍している人などを参考にするといいと思います。
岡田講師	その方が毎回やるんですか。
森本委員	臨機応変にケースバイケースでやって貰うことになると思います。
陣内委員	「アイデア」の所で、各ワーキンググループを知ることが出来る仕掛けが出ましたが、重要な事だと思うんです。それをやる事によって、また新しい活動が発生したりするというメリットがあるので、ネットワーク会議みたいなものを企画運営委員会で実施できるといいと思います。
岡田講師	進行管理だけではなく、ネットワーク会議みたいなものを行うということですね。
三宅委員長	「行うこと」ですが、まず、スポンサーを見つけるというような活動を各委員会レベルでやらなければいけないと思います。例えば、経済団体や関連業界の団体などですね。それから、先進都市の見学会などを企画して視野を広げたり、研究委託として大学などに何か改善できるようなことを委託すること。そして、神戸市のマイバック運動についてですが、デザインがあまり良くなかったらしく、神戸市在住のデザイナーにお願いして無料でデザインをして貰ったという事もあるので、そういうことも含めて考えていきたいと思っています。
荒木委員	企画運営委員会の「構成」の中で、今行っているこの会議の中には、事業者や市民の方

	も入っていますよね。そういう意味で今後も委員を募集して入れるのか。
岡田講師	ワーキンググループに関わらずですか。
荒木委員	関わらずです。
岡田講師	この委員会の会議のために参加する人がいるのかという事です。
荒木委員	そうです。それから、企画運営会議の委員会の中に、例えば全員で参加する必要のないテーマを絞って議論する場合に、小委員会の様なものを設けられるのか。例えば、新しい会員を募集するためだけの議論をする場を作ると効率的かなと思います。
事務局	この会議の事業ということですが、基本的には全体の活動とワーキンググループの活動に区別されると思います。ワーキンググループが行う活動は、グループの中で計画を出していただいて、企画運営委員会の中で意思決定していければと思います。企画運営委員会の役割は、基本的に全体の事業計画を考えることです。総会に関しては、企画運営委員会が作成した全体活動に関する審議、承認をする場と考えております。また、企画運営委員会は、年度途中で、自然発生的に生まれる新たなワーキンググループに関しても、企画運営委員会で意思決定ができればと考えています。
岡田講師	前回のワークショップの最後の環境パートナーシップ会議に対するイメージという所を出していただいた時にも、新規のワーキンググループの話について考える入り口として、という意見があり、その都度総会で諮らなくても企画運営委員会で決めたらどうかという意見もありましたがいかがですか。
大谷津委員	そうですね。新しいワーキンググループに限らず、既存のワーキンググループで計画の見直しをするという時もあると思います。
岡田講師	来年度に出てきた事業計画にも重なってくると思いますが、例えば、年次報告書に意見を述べます、とありますが、これは毎年やっていきますか。全体の新規参加は運営委員会がやっていく事ですかね。講座はどうですか。既にワーキンググループで環境学習をやっていこうという所があるのですけれども、来年度に具体的な活動がないとしてもワーキンググループでやっていく事なんじゃないかな。
青木委員	講座ですが、問題はやはり予算だと思います。講座を定期的に関くためにはかなり予算が必要になると思います。その予算が工面できれば、ワーキンググループで行う事は可能だと思いますが、できれば当面は市で環境リーダーに関する予算が取れるかどうかだと思います。理由としては、きちんとした人を招いて対価を払って講座を開いていかなければならないということです。ワーキンググループの中で行うとすれば、手作りのものになりますが出来ると思います。しかし、そのためにも準備が必要だと思うんですよね。
三宅委員長	市に質問ですが、環境指導員の認定の様な制度はありますか。
事務局	環境リーダーと呼ばれているものにつきましては市内でいろいろと調整をしております。今はリサイクル推進員や緑化ボランティアなどいろいろな形で展開されております。私どもとしては、本当に成果のあがる活動かどうかという事を内容的に調査をして、本当に新たな環境リーダーが必要かどうかを含めて検討している所です。県には広域環境リーダーの登録制度がありまして、そういった既存のリーダーを積極的に利用していないというのが実情ですので、そういう人達を大いに利用することから始める必要があるのかなと考えています。新たに養成する以前のレベルですので、リーダー育成ありきではなくて、今の実態をよく把握して何が一番優先的なものなのかを検討している所です。
森本委員	リーダーまでいかななくても、推進員や指導員などのもっと集約したものというか体系的なもので活動していく人達を養成していくというレベルでたくさん増えていくのがいいのかなと思います。大きく考えなくても出来るものがあると思います。

岡田講師	先ほど、運営委員会の行うこととして、全部のワーキンググループの活動のネットワーク会議というのがありました。今の話ですと既に点在している方たちをどう束ねるかということだと思えます。これはすぐに実現できるかは分かりませんが、行うこととしてリーダーの育成というのがあるのもいいと思います。新たに養成するとは限らないという事ですね。他に何か気づいた点がありますか。
三宅委員長	「行うこと」で活動実績の評価というものが必要だと思います。
事務局	市民に公表して行って、活動に対して意見をいただくという事になると思います。
岡田講師	それは会員だけではなく、広く一般の市民にも公表していくという事ですか。
事務局	一般市民にも公表するという事になると思います。
岡田講師	他にありますか。
高橋委員	企画運営委員会で事業計画を立てる際に、例えばこのワーキンググループは来年動かすとか、このワーキンググループは今のところ熟度がないのでもう少し温めておくとかありますよね。その温めておく方のワーキンググループを管理する機能もこの委員会にはあるのかなと思います。動き始めたワーキンググループだけを管理するという事ではないという意味です。
荒木委員	小委員会でそういうものを議論することや、市民から提案のあったものを議論する事。それと、今残っているもので魅力あるものを肉付けして作り変えるという事を、小委員会を設けて行う事もいいと思います。それで活動の項目を増やしていく。小委員会では、ワーキンググループが増えた時に、他のワーキンググループと関係のある所だけ議論するという事もできるので、そういう事をやっていけばいいのかなと思います。
岡田講師	小委員会がいくつ出来るか、企画運営委員会がどの位の人数になるのか。企画運営委員会の委員はこれから募集していくんですよね。
大野委員	先ほど講演会という話がありましたが、各ワーキンググループでのそれぞれの勉強会もさることながら、表層的な勉強という意味において、専門的な人を招いて勉強したりとか、講演会を開催するという提案が各ワーキンググループから出てくる可能性があると思います。ワーキンググループの中でやれるものについてはワーキンググループが主催するが、出来ないもの、例えばお金の問題とか人手が集めきれないという場合には、企画運営委員会に提案をして1つのプロジェクトチームみたいなものを作って、そこでシンポジウムやセミナーなどを主催していただきたいと思います。それから、企画運営委員会の行うことですが、環境基本計画の実行の部分を果たしてはどうかと思います。環境基本計画の中には行政がやるものや協働でやるもの、民間がやるものなどに分かれています。その中で特に協働でやるべきもの、あるいは市民が主体でやるべきもの、それを落とし込んでいくものが企画運営委員会の役割なのかなと思います。ですから、環境基本計画をいかに実行に移すかという事が重要だと思います。
岡田講師	今の意見については、「役割」の所出てきましたが、環境基本計画を推進する一翼を担おうという事ですね。それを具体的にどうやって進めるかというのは、活動実績の評価という中でやっていけるのかなと思います。今新しく出たのは、それを誰がやっているのかという意見ですね。他に何かありますか。 特になし。
	総会について
岡田講師	では次に総会についてに移りたいと思います。企画運営委員会の行うことについて、かなり具体的なことが出てきたと思います。総会ということですから、年に何回もあることではないと思います。個別のワーキンググループの中では、ワーキンググループの決定などは企画運営委員会で決めることが出来るという事ですので、総会では何をやるのかという事を決めて行きたいと思います。それでは5分程度時間を取りますので考えて

	<p>みてください。 時間終了。</p> <p>では、進めたいと思います。総会に参加する構成メンバーはどういう人になりますか。著名な人ですかね。著名な人は会員になっていただくんですかね。</p>
三宅委員長	<p>どこの世界から出るのがいいの。行政からではないのは間違いないですが。大学の先生とか著名な人ですかね。</p>
岡田講師	<p>他に具体的にどの様な方がいいと思いますか。会員数については1万人を目標にしたいという意見があったんですが、1万人集まったとして、その方全員が総会に参加するんですかね。</p>
荒木委員	<p>会員ならそうですね。</p>
岡田講師	<p>会員は全員なんですね。今、会員というのは大きくひと括りになっていますが、先ほど賛助会員という話もありましたがその方達はどうしますかね。</p>
青木委員	<p>会費を払っている人は参加する対象になると思います。</p>
岡田講師	<p>先ほど、企画運営委員会の中で行政が入っていたと思いますが、ここではどうなんですかね。この場合は会費を払うんですかね。行政の方はどうすればいいのでしょうか。</p>
大谷津委員	<p>当然会員になってもらう事になるんでしょうね。</p>
岡田講師	<p>個人単位ですか。</p>
大谷津委員	<p>そうですね。個人単位ですね。</p>
大野委員	<p>法人会費という形があると思います。</p>
青木委員	<p>素朴な疑問ですが、総会があってその下に企画運営委員会があるすると、企画運営委員会というのは一般的ないろいろな団体では役員に相当すると思うんです。</p>
三宅委員長	<p>会社のイメージですと、社長がいて株主総会があるという形ですね。</p>
青木委員	<p>会社組織の総会的なイメージですかね。一般的な民間団体ですと、総会で決定するのですが役員というものがあって、イメージとしては企画運営委員会が役員に相当するものかなというものを持っているのですが、ニュアンスが違うという事ですね。そこを明確にしておかないと総会の役割が明確に出来ないと思います。</p>
岡田講師	<p>通常は予算的なものなどを決定する所ですよ。</p>
青木委員	<p>予算と決算の承認、「承認」というイメージが強いんです。そうすると、決算書を作らなければいけないので役員というのは当然必要な訳で、役員というのは企画運営委員会の中では議論していなかったんで、総会と企画運営委員会の役割を明確にしておかないといけないと思います。図式でいうと他の人のイメージとは違くなる場合があると思いますし、会社の人と一般的な民間の人とのイメージは違うと思うので明確にしてから総会の役割を考えた方がいいと思います。</p>
岡田講師	<p>一応、今の構想で考えているのは、環境パートナーシップ会議はワーキンググループまで考える会議のイメージなんですけれども、組織としての会則を作ろうという組織ですよというのをお考えだと思うんですよね。みなさんも組織としてイメージしていると思いますが。</p>
青木委員	<p>先ほどの話で著名人を招くという意見がありましたが、そうすると見掛けがイメージアップするので企画運営委員会の長が一番トップにくるというイメージが強いんです。形式的な長でいいならば著名人でもいいと思いますが、そうすると著名な人と企画運営委員会の長が別個に必要なようになってくると思います。</p>
三宅委員長	<p>配られた資料で「とちの環(わ)県民会議の役員案」というのがありますが、これを見ると総会はそのようなイメージなんですよ。</p>
事務局	<p>あくまで事務局のイメージとしてですが、とちの環県民会議の役員というのは基本的に忙しくて携われないのかなと思われる方たちが何名かいて構成されているんですが、こ</p>

	<p>の環境パートナーシップ会議というものはガラス張りの組織にしたいと思っており、他市事例については皆さん読んでいただけたのかなと考えているんですが、総会と企画運営委員会の他に役員会というものを設けている場合が殆どです。</p> <p>ただし、それですと形式的に役員会の承認を得た後に総会に諮らないといけないと手続きが必要であり、なるべく簡素化したいと考えております。したがって、あくまでも事務局のイメージではありますが、基本的に総会に関しては予算、決算の審議決定のみで、企画運営委員会が総会の会長や副会長、幹事を推薦するといったイメージを持っていますが、ある程度著名な方を、市民協働組織ですので、市民、事業者、行政からそれぞれ1名ずつ会長に1名、副会長に2名などで構成できたらという様にイメージとしては考えています。</p>
岡田講師	最後の部分をもう一度お願いします。
事務局	市民、事業者、行政で、基本的にこの組織というのは「民」の組織というイメージを持っていますので、出来れば会長は民の方に、副会長に行政、会長が市民だとすれば事業者の方に、という様なイメージを持っています。
岡田講師	先ほど言った二段階になるような組織になってきちんと意思決定できる組織にしていきたいという事ですね。
青木委員	企画運営委員会が運営の主役になり、総会は予算、決算の承認を行う事がメインの仕事で、ただし、考え方を変えると、総会でも役員が決まるのは一般的なもので、役員というか幹事と言うかは分かりませんが、総会で企画運営委員会の人選をするという事ですか。
事務局	その辺は難しい所ですが、総会で会長、副会長、幹事を決定したいと考えていまして、担保となるものは企画運営委員会からの推薦という形を取りたいという様に事務局としては考えています。
大野委員	普通の組織と少しイメージが違うんですが、企画運営委員会というのは企画を立てて運営もする、総会というのはそういった企画案、決算の承認ですから、あくまでも企画運営委員会の会長が総会を招集して、あるいは議長になって総会を開くというイメージですね。ですから、例えば普通の会社組織のものとか、あるいはとちの環県民会議というものからするとかなり簡素化されて、企画運営委員会の行動範囲がものすごく広がるんですね。
三宅委員長	企画運営委員会がそのまま総会の要になってしまうと同じ事の議論になるので、イメージでは企画運営委員会は思い切り実践をする、そして総会の機能はそれをチェックするというステータスとして利用するだけ。だから総会のメンバーというのは、おのずと著名な人でステータスを上げるという事と、一般市民の代表がそこに入ってきてその活動をチェックするという機能でいいのかなと思います。
大野委員	そうすると、総会の中にも役員が必要になるという事ですね。
青木委員	整理しますね。そうしますと、先ほど出た予算、決算の他に言うことがあって、事業計画と報告の最終的な承認も総会でやるべきだと思うんです。総会でチェック機能もきちんと行うとすると、先ほど企画運営委員会の中にチェック機能を、という話をしましたが、評価委員会を外に出して明確にやって貰わないと公平性は保てないですね。あくまでも総会は予算、決算及び事業計画、事業報告の最終的な責任を負う所だと思います。チェックというのは、明確にするために外部に見て貰うのが本当のチェックですね。
三宅委員長	民間の組織では企画運営委員会が総会の仕切り役になって実際にやっているんですね。
青木委員	一応、基本的には総会で承認を受けて企画運営委員会の役員になるという手順を取らなければならないんですけど。

三宅委員長	それはあまりチェックにならなくて形だけの総会になりませんか。自分たちの活動を自分たちで解決するようなものなので。
大野委員	大半はそうでしょうね。ただ、形の上では一般の会員も入っていますから、一応チェックはされてると思います。ただ、実際には監査というものがありますからね。
岡田講師	運営委員会は殆ど役員のものですが、会員が1万人に増えた場合も参加出来るという事ですね。
大野委員	先ほど出た意見の様に、企画運営委員会にどういう性格付けをするかによって、おのずと総会のあり方も決まってくるでしょうね。いろいろな権限は全部企画運営委員会が持っているという事であれば、総会が承認機関、もちろん一般会員のチェックというものも受けますが、大半の機能が企画運営委員会に入ってくると思います。
岡田講師	大切なのは、企画運営委員会を動きやすくするためにはどうすればいいのかという事を考えて貰えばいいのかと思います。あまり企画運営委員会を硬くすると、何も出来なくなる可能性もありますし、だからといってノーチェックではいけないと思います。他に総会について何かありますか。
青木委員	総会で行うことについてもう少し議論した方がいいと思います。先ほど、事業計画の承認と、予算、決算という話をしましたが、それ以外にどんな事をするのかが決まってくると構成が決まるのかなと思います。
岡田講師	どちらが重要かといったらどちらですかね。
委員数人	企画運営委員会ですね。
大野委員	チェックという事ですが、各会員の人が入ってくる訳ですから自己チェックも働きますが、公開とか公表というのをやれば、一般市民からのチェックというものも受ける事が出来ますよね。
森本委員	企画運営委員会では実質的な活動を決めていったりする様な機能ですね。総会というのは形だけでも責任を取るといった様な表向き顔な訳ですよ。行政が総会の長にはならない方がいいという意見もありましたが、個人的な意見としては、市長という名前が入っていることによって、市長が市民と一緒にやっという意思表示になるような気がするので、市民にとって、市長はやる気なんだな、という印象を受ける事が出来るので、行政に入って貰った方がいいと思います。あとの方は誰がいても同じような感じなんですが、市長がこれに参画しているかどうかという事が、重要な事だと思います。
高橋委員	個人的な環境パートナーシップ会議のイメージでは、強いて言えば市民が一番上だと思っています。行政が上に立たない方がいいと個人的には思っています。行政の長が上に立っていると、今までのものと変わらないと思います。
森本委員	そうすると、民間の団体と何も変わらなくなってしまうと思いますが。
岡田講師	総会などに行政が入るわけですよ。
事務局	栃の環県民会議の総会に出させていただきましたが、ここで福田知事がおっしゃっていたことは、会長のあるべき姿は「民の人」であるという事、ただし、すべり出しは行政という事で私がやる事になりましたが、こういった事ずっと続ける訳ではないといった発言をしていました。基本的には、県の会議についても、いずれは民の人が代表になるという様なイメージを持っています。
岡田講師	市民として山形委員はどうですか。
山形委員	著名な方になっていただけるといいのかなと思います。
青木委員	反対意見なんですけど、著名な方は名誉会長でいいと思います。実質的に動く市民が一番いいと思います。市長より市民の方が今回の環境パートナーシップ会議の趣旨に沿っていると思います。

荒木委員	とちの環県民会議の役員を見て、結局行政が作ったものと言う印象を受けたので市民がいいと思います。
岡田講師	先ほど、NPO とどこが違うのかと言う意見があったと思いますが、そういう意味で行政が入るのも1つの意見ではないかと思えます。しかし、市長が入ると結局行政がやっているのか、というイメージも出てきてしまうと思うんですね。最終的な構成は今後決めるという事でよろしいですかね。具体的に誰にするかという事は今後議論していただきたいと思えます。最終的には会長とか副会長という役割は決めないといけないと思えますが、今日はどこまで決めればいいんですかね。
事務局	会則にのせる範囲でご協議いただければ結構です。
藤原委員	今の議論の中で、会員とは何だと言って会員になって貰うんですか。会員になって何をやるのかという風にはなってしまいませんか。何のための会員なのかという事ですね。
岡田講師	会員になるメリットは何かという事ですかね。
藤原委員	例えば、総会で自分の意見が言えないとすれば、来ない人もいると思うんですね。
青木委員	会員には2種類あって、1つは活動に参加出来ないけれどもいい活動をしていったら会費を納めて援助してくれる会員ですが、それが大多数だと思います。もう1つは、実際に参加して主体的に動きたい会員の大きく2つに分かれると思えます。むしろ、1万人が目標ですから、いい活動をしているな、と評価して貰って前者の会員を増やしたいと思えます。ですので、総会で1万人が集まるとは思っていませんし、活動には参加しないけれども、お金を払って参加したいという人もいます。
藤原委員	市で今まで作っている会議もいろいろとあるんですが、大体しぼんでいく様なものが多いですね。それは、今の意見とは逆で、会員になって何なの、という事でやめていく人が多いんです。
岡田講師	この辺の事は、会員をどう増やすかという事を含めて今後立ち上げに準備がいますので、呼びかけに当たってどう呼びかけるかという事を議論していければと思います。
事務局	このような市民会議でいくつかの失敗例はあるとは思いますが、なぜ失敗したかと考えると、基本的に具体的な活動を明確に出来ないまま会員を募集したためではないかと考えています。そこで、この会議を振り返っていただきたいのですが、非常に活動に関する議論に時間を掛けています。つまり、参加者募集を掛ける時は、できるだけ活動を明確にした上で募集したいと考えています。また、先ほど青木委員が言われた様なこの会議の活動に賛同していただけるという方に関しては、基本的にそういった形での会員としての参加をお願いできればというイメージを持っています。ここの部分に関しては、今回の会議ではなくて、第6回、第7回の会議で議論していただけたらと考えています。
大野委員	ワーキンググループの活動を明確にという事ですが、今3つのワーキンググループが出てきていますが、どういう事をやりたいのかを皆さんから集めた事を議論して3つにしましたよね。それは私の目から見れば無理やり3つにした様に見える訳で、基本的には環境基本計画で課題ごとに整理されていて、例えば地球温暖化の問題とか、環境保全に関する問題とか地球規模の問題もありますし、いろいろな課題がありますが、それは非常によくまとまっていますので、1つの例ですが、その中に地球温暖化を防止するためにはこういう手段がいくつかありますと整理されていて、その中には皆さんが始めやすいものがいくつかありますので、環境基本計画に基づいて、きちんと理由付けるという事が明確にする方法ではないのかなと思えます。 それともう1つは、元々環境に対する対策というのは、行政がやるものではないかという声はまだまだ強いと思うんですね。ここにいる皆さんは意識が高い方なので、市民主体という事がすぐに出てくると思いますが、まだまだ一般の考え方としては、行政が

	<p>やるべきもの、何でやらなければいけないの、ましてや会費を払ってまで何でやらなければならないのという意識があると思いますので、この事についてももう少し論議してもいいのかなと思います。たまたま他の県でこういう組織を作ってやっているからという事もあるのかもしれませんが、まだ栃木県では市民の意識レベルは低いと思いますから、いきなりこういう組織を作って市民主体でやりましょうといってもなかなか動かない、ましてや1万人も集まらないと思うんです。ですから、なぜここでこういう組織を作って、民間的な組織にして環境対策をやるのかという事ですね。この辺をもう少し明確に出来たらと思っています。</p>
岡田講師	<p>最初のワーキンググループに関しては、当面は今いるメンバー位で出来そうな事から選んだんだと思うんですね。だから、長い目で見ると何年計画かは分かりませんが、環境基本計画に足りない事は企画運営委員会の中で活動していきながら、ワーキンググループを立ち上げたり温めていく事は必要だと思います。ただ、その時にその人達がどうやってその人達が集まってお金まで払って来てくれるかという事は、どれだけこれからの企画が楽しく出来るかという事だと思います。</p> <p>そろそろ次の財源の話に移りたいと思います。</p>
	<p>財源について</p>
岡田講師	<p>今の時点では、来年度に向けて3つのワーキンググループが立ち上がってしまっていて、今の所は来年度各グループ30万円位ずつの予算が付けられるかなという所で事業計画を練ったかと思っています。来年度の予算に関しては行政の方で決めるという事でスタートしているんですが、先ほどあった、ワーキンググループは何年かかけて作ってあげればいいのか、という意見にも関係してくるんですけども、少なくともずっとやっていこうというつもりです。何年かで解散しようという話ではないと思いますので、その時に、環境パートナーシップ会議がどの様に運営し続ける事が出来るかという事を考えると、人も当然必要ですが、財源がないと全部自費でやっていかなければならなくなってしまいますので、その事について決定は出来ないと思いますが、アイデア出しとして議論していただきたいと思っています。今後の予算として、来年は市が90万円位は付けられるという話でしたが、今後についての率直な話を市の方からしていただければと思います。</p>
大谷津委員	<p>先ほどのいろいろな話し合いの中で、市の財政状況が非常に厳しいという事は皆さんご承知かと思いますが、今は税の収入を見込む事が非常に困難な状況のため、市の財政が非常にひっ迫しておりまして、各課で事業を計画してもどの事業に対しても予算が切られているというのが現状です。担当課としては約30万円ずつの予算を確保するために頑張っている所ですが、やはり、この環境パートナーシップ会議もこの対象の中に入ってきております。事務局としてこの事業を推進していく上では、現在は補助金による支援という形で考えております。補助金の支援というのは全額補助をして貰えないので、その内の一部は皆さんの会費や賛助金といった様な何らかの形で賄っていかないと非常に厳しいというのが現状です。ですから、先ほど申し上げたワーキンググループ各30万円の予算についても全額の補助金と言う訳ではなくて、会費や賛助金といった様な形で賄わないと厳しいという状況であります。また、その補助金につきましても、毎年継続的に決まって補助金が下りるという事ではなく、ある一定の期間を設けてある程度見直しをされて補助金が減らされたり出なくなったりしてしまう様な状況であるという事だけのご理解をいただきたいと思っています。</p>
岡田講師	<p>最初から予算的に無くなるという話ではないという事ですが、それは不確定であるという事ですね。それから、予算はどうなるか分かりませんが、人に関しては行政がずっと参加していくという事は継続していくんですね。</p>

大谷津委員	はい。そうですね。
岡田講師	企画運営委員会や総会の参加者全員に声を掛けるとか、調整機能として事務局が必要だと思いましたが、当面は今の体制で進めていくんですかね。
事務局	その事についてですが、事務局機能というのは庶務とか会計、それから準備会の中では、これまで事務局として環境企画課で資料作成など携わってきました。連絡窓口は当面は、環境企画課で担いたいと考えていますが、各主体間の連絡調整については、協働組織でありますので市民、事業者の方のネットワークも必要となります。いろいろな意味で事務局機能というのは市ばかりではなく、事業者も市民も担っていく必要があるという事が協働ではないかと考えていますので、その事についてご意見をいただければと思います。
岡田講師	この様に、最初にきちんとした話があった方が分かりやすくいいと思います。かなり行政が手厚く保護して何年か経った時にお金がないから自立しなさいという様な事例はたくさんあります。そういう意味では環境企画課で予算が無くなるかもしれないですし、事務局もある所までは手伝うという事ですね。ただ、先ほど NPO とは違うという意見をいただいているんですが、これはこれから議論していく事ではあると思いますが、協働と言うからには一般の NPO がやっている事とは意味合いが違うと思いますので、非常に難しい課題を抱えている会議なんだなと思います。ただ、今の様な話の中で、この会議として自主的な財源をどこから調達してくるかという事を検討しないと、会議を持続させるというのは考えられないので、調達するためのアイデアを出していただければと思いますので検討してみてください。
岡田講師	自主財源について何かアイデアがありましたらお願いします。
陣内委員	世の中に助成金はたくさんありますが、それだけでやっていくのは不安定なので、基本的には会員をきちんと集めていく事が重要だと思います。これをベースに助成金などを調達していく事がいいと思います。森本委員が言われたとおり、お金を集めるだけの小委員会というのはやはり必要だと思います。
大野委員	寄付金とか講演会の収入などいろいろと考えました。それから、自前で商売をする事だろうかと思うんですが、例えば、イギリスとかアメリカでは寄付金が非常に多いと聞いています。企業でも儲かった利益の何パーセントかは社会に還元するという様にやっている会社が多く、個人でも成功すれば寄付していると聞きます。やはり、市民活動が盛ん、あるいは市民意識が高い国民性だと思うのでそういう事があるんだと思いますが、日本ではまだそこまでは難しいので寄付金というのは難しいと思います。自前で商売するという事になりますと、それが目的になってしまう恐れもありますので、非常に危険性が高い。その点から考えますと、何においても活動のスタートと言うのは一番エネルギーを必要としますから、やはりスタートの時の財源だけは市に頼らざるを得ないのかなと思います。それに頼らずにうまく活動しているグループが他の事例にあれば教えていただいて、そのいい所を参考にするという方法もあるかと思います。しかし、スタートでつまずいて惰性で2、3年はいくけれども潰れてしまっただけでは、せっかくやった事が無駄になりますので、何とか成功するためには、と言う意味においても、スタートの一番エネルギーが必要な時に安定した財源を確保するためには、市に頼らざるを得ないと思います。
三宅委員長	事業者の立場から言いますと、最近「CSR」という言葉が流行ってきていると思いますが、これは、企業活動に社会的公正性や環境への配慮を取り込むというもので、それは企業にとって必要な条件というかステータスであるという時代になってきています。そこをうまく使って、企業からお金を調達するという方法もあると思います。一方、自分自身の立場で考えると、町でいろいろな加入組合というのに入っているものすごいお金

	を出している。そういう立場でいうと、また新しい組合に入ってくれと言われてお金を出すのは嫌だなというのもあるんですね。ですから、これを機会に市や町で企画されている団体で廃止してもいいような団体がいくつかあると思いますので、それを整理統合する中でこの会議にお金を出すという形になればいいと思います。攻め方として、企業からお金を調達する方法と、既に存在している団体からお金を調達する方法があると思います。例えば、経済団体の環境活動の実践として年に10万円出してあげるよといった様に、そういった団体から調達する方法があると思います。個人だけから調達する事は厳しい部分があると思います。
森本委員	全国的に会はどんどん出来ているが、会に入ること自分にメリットがあるという事を明確にすれば入っていただけるので、会費は集められると思います。例えば、ゴミは一件当たり3万円の費用がかかっている、市内に15万世帯位ありますが、それを私たちは何とか少なくしていく事で皆さんに還元していく事が出来る様にしていきます。と断言して、そのための会費が今必要なので出してください。という様な明確化するものがないと入ってこないと思います。
大野委員	3つのワーキンググループが、例えば、10年計画で環境基本計画をやるという長期的な目的の中での位置付けをきちんとするという事が、他の人に分かって貰える事だと思います。例えば、今、3つのワーキンググループの活動内容を簡単に出したとしても、環境活動をやっているグループとどこが違うのかという疑問が出ると思うんです。そうではなくて、この環境の施策というのは長期的な視野の下に段階を踏んでやっていくんだ。という様に説明し、その結果、こういう結論が出るという様に示すべきだと思います。要は、活動をよく知ってもらわないと理解も得られず会員も増えないという事です。
森本委員	これはプロジェクトチームで考えていくべき事かもしれませんが、例えば何かを販売する事になった時に、会員になっていただいた方にプリペイドカードの様な物をあげるようにして貰って、そういったメリットがあるような勧誘の仕方もある出来ない事はないと思います。
岡田講師	確認したいのですが、補助金とか寄付金のアイディアは、この会議の活動が今までの活動に比べてどれだけ魅力があるのかという事で、企業から調達できるのではないかという意見がありましたが、もう一つ、会員を増やしていくという発想で、会費を取るという事に関して異論のある方はいますか。
委員全員	異論なし。
岡田講師	先ほど、会費を払った人が会員であるという意見がありましたが。会費の金額については、次回以降の会議までにアイディアを練っておいていただいて、今日は会費を取るという事でよろしいですね。
大野委員	ゆくゆくは、会費が財源の主体になると思うんですね。ただ、会費を取るためにどういう事をやらなければいけないかという事が重要だと思います。会費を皆さんが自発的に納めていただける様にするためにはどういう風にすればいいのかという事です。
藤原委員	事業者の立場から言うと、こういう時代ですから、ステータスとして会費を納めるというのはなかなか難しいと思うんです。ただし、この会員になったとすれば、何らかのメリットがあるという事になれば、逆にいえば会員になる事をステータスにしまえばいいかもしれませんね。それが企業にとってはメリットになると思います。
大野委員	1つの例ですが、環境家計簿というのがあり、市でも推奨しているものだと思いますが、京都議定書で二酸化炭素を6%削減しようというのがありましたね。環境家計簿を作ると数字で出てくるので、自分がどれ位の二酸化炭素を削減できたのかという事が分かりますよね。それで自分でも家庭版 ISO に参加しているんですが、自分が京都議定書の二酸化炭素6%削減に対して、どれだけ役に立っているのか実感できる様になっているん

	ですね。
藤原委員	もちろん、会員になっているとそういった事に貢献しているという事ですね。
大野委員	ですから、達成感があるとか社会の役に立っているとか、そういうメリットが無いと個人も会社もお金を出そうという所までいかないと思うんですね。
高橋委員	環境パートナーシップ会議の考え方の中に、U ネットという情報を発信する場所がありますよね。そういう所に、1つは報告というのもあるでしょうし、企業側から見れば、一生懸命やっている所が環境に関する情報を出したりしていますよね。そういうのをどんどん載せて発信の場に使ってもらおう。そうすると、その企業にとってメリットになりますよね。環境に対してどれだけ配慮しているのかという事を安い法人会費で宣伝できると思うので、そういう所から賛助的にお金を集められるのかなと思います。そのためには、その情報を見る人が多くならなければいけないという事と、見て楽しい情報でなければいけないという事だと思います。そこで、ISO 14001を取った企業の一覧表を載せたりという様に、そういう場所で宣伝が出来るという事で消費行動に移ると思います。市民から見れば、例えばその企業がこんなに環境に配慮しているという事で、その商品を買うという様になると思うんです。
岡田講師	そういった財源についても企画運営委員会の行う課題になると思います。
青木委員	財源について1つ考えなければいけないのは、ワーキンググループでもお金を使うので、その時にワーキンググループ自体が当然ある程度はスポンサーを見つけなければならぬという事です。環境学習推進グループの場合はエコバックをやるようとしているんですが、これも最初からスーパーなどを巻き込む事を前提に考えています。更に、エコバックができた場合にデザインを売り出して稼ぐという事も考えています。
岡田講師	1つ1つのプロジェクトがいろんな所、いろんな段階で、例えば講演会を行うなどして小さいお金を少しずつ集めていかなければいけないという事ですね。
青木委員	先ほど、会費という話がでしたが、会費でやるうとすれば最低3,000円は必要だと思います。それともう1つ、NPO化というのも1つの視野に入ってくると思うんですね。
岡田講師	NPO化について財源としてはどのようなメリットが考えられますか。
青木委員	自主事業が出来ますから事業収入が入りますよね。それから企業側も寄付しやすくなると思います。お金集めはむしろ何も無いよりもやりやすくなると思います。その時に行政はどうするのかという問題はありますが。
岡田講師	行政は法人会員として入ってくるのは可能ですかね。
青木委員	可能だと思います。
荒木委員	会員を集めるために、この先どうなるのかとか、ワーキンググループで環境項目4つに対してこの様な活動を考えていますので、この様な活動をしたい人は集まってくださいというのは1つの方法だと思うんです。そして、その集まった人が自主的にリーダーになって活動していくという事がいいと思います。
岡田講師	今いる人だけではなく、外から入ってきてリーダーをやる人が出てくるかもしれないという事ですね。今日はいろいろなアイデアが出てきましたので、これから実現に向けてぜひやっていただきたいと思います。来年度は予算が付いていますので、そういう意味ではゼロからのスタートではないと思いますので恵まれている方だと思います。
大谷津委員	現時点では予算は計上中という事で、決定ではない事をご理解いただきたいと思います。
青木委員	補助金についてですが、一般的に民間に対する補助金の場合には設立して実質3年位ないと出ないと思います。最初の立ち上げの段階から出る補助金はあまりないと思いま

	す。
大野委員	企画運営委員会の最初の組織構成についてですが、行政と市民あるいは環境グループですが、この役割というものをもう少し明確化する必要があるのかなと思います。というのは、環境という市民だけではだめですね。やはり、事業所側に対するいろいろな条例や規制、監視といったものが必要だと思いますので、そういったものが全部脈略を持ってやらないといけないと思います。ですから、そういう役割というものは明確にしておくべきかなと思います。その中で、法人会員としての行政のあり方というものが出てくると思うんです。
岡田講師	環境基本計画の視点もありますし、それを運営していく主体として市民、事業者、行政の役割というものがありますよね。議論は尽きませんが、こういった議論を来年度も継続していただければと思います。今日はラフなアイデアになっているとは思いますが、次回以降、事務局が会則案にさせていただけるんですね。 <p>予定の時間をかなりオーバーしてしまいましたので、以上で今日のワークショップは終了とさせていただきます。</p>
三宅委員長	どうもありがとうございました。岡田講師は今日で最終回という事ですが、ずっと通してやっていただいたので岡田講師の方から一言お願いいたします。
岡田講師	ワークショップということでお手伝いさせていただいたんですけども、要はこういった具体的な手法をとらなくても、どれだけ活発な議論が出来るのかという事がこれからの会議の持続性に繋がるのかなと思いますので、あまり無理をしない程度に活動していただければと思います。
三宅委員長	どうもありがとうございました。それでは最後になりますが事務局の方から1つ報告があるという事ですのでお願いします。
事務局	ホームページの関係ですが、「うつのみやの環境」についてホームページを12月12日にリニューアルをいたしました。これまでは、例えば環境基本計画、環境基本条例というも「身近な環境」という所で単発的にご紹介させていただいていましたが、それでは分かりづらいということで、「うつのみやの環境」という事で、環境部全体の業務が一目で分かるように、課ごとに、条例・計画などの性質ごとに、それから「最新情報」という事で環境部全体の業務が分かるようになっております。関連する所にもリンクしてつなげるようになっております。ぜひ皆さんにもご覧いただいて評価をしていただくとありがたいなと思っておりますので、感想やご意見をメールで環境企画課へお寄せいただければと思っております。宜しく願いいたします。
三宅委員長	ありがとうございました。「宇都宮市」で開くとトップページの中の新着情報にあるそうですので、ぜひご覧ください。以上で終わりたいと思いますが何かありますか。
事務局	次回の会議の日程についてご説明させていただきます。次回は1月15日(木)に市役所の会議室で予定しています。お忙しいところ申し訳ございませんが宜しくお願い致します。
三宅委員長	ありがとうございました。次回は1月15日午後6時から市役所で行うという事です。皆さんの方から何かありますか。 特になし。 <p>長時間に渡りご苦労さまでした。それでは以上をもちまして第5回環境パートナーシップ会議設立準備会を閉会したいと思います。ありがとうございました。</p>
閉会 : 午後9時10分	